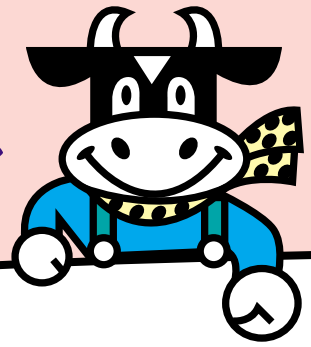




ワンポイント・アドバイス



大腸菌性乳房炎

今年の夏も猛暑で乳房炎の発生が大変多くなりました。夏季には他の菌種より大腸菌による乳房炎の発生割合が高くなります。これは気温が高くなると、他の菌よりも増殖力が高い大腸菌が牛床の敷料などで増殖しやすくなるためです。大腸菌による乳房炎は死亡・廃用になる率が高く、治療しても泌乳量の低下などで経済的損失も大きくなります。

しかも近年ますます夏季の大腸菌性乳房炎の発生が増加しているようです。これは夏に分娩する牛が増加していること、また免疫力の弱った分娩後10日前後に大腸菌性乳房炎に罹りやすいことに関係していると思われる。さらに暑熱のストレスがそれに拍車を掛けているようです。

原因

大腸菌、グレブシエラをはじめとする大腸菌群と呼ばれるグループの細菌の感染によって起こります。敷料に使うオガクズ、糞尿で湿った牛床など糞で汚染された環境の至る所に生息しています。

症状・特徴・治療

急性の乳房炎を起こします。乳質が良く乳房炎経験の少ない牛に発症が多いようです。多くは1分房ですが、2分房以上罹ると特に重症になる傾向にあります。



衰弱牛

他の乳房炎に比べ乳房の腫れ、熱感、痛みは進行が早く重症になります。乳汁は水様性で、初めは細かく後にヌルヌルとしたブツが多くなり分離乳になります。全身症状も、40以上の熱が出ることも珍しくなく、次第に元氣、食欲はなくなり、下痢と脱水、皮温低下、目が陥没してただ事ではない表情になります。さらに重症なものは起立不能になり死亡するものもあります。



乳房

このような重たい症状は大腸菌が死滅するときに出てくる毒素(エンドトキシン)によって起こります。毒素は体の各所で血液を固めてしまい、血管を詰まらせてしまいます。

このために乳房では乳腺組織が死んで牛乳が少量の水様液に、さらに毒が全身に回ると腸管で詰まり下痢に、目は出血し真っ赤に、しまいには立てなくなり死亡ということになります。大腸菌の乳房炎の場合「ちゃんと治療したはずなのに返って乳房炎が悪化した」という事がしばしば起こります。これは乳房内で無限大に増殖した大腸菌を大変よく効く抗生剤で治療したため、大量の毒素が出た事によると思われます。

このように発症すると重症になるので乳汁性状、全身症状を早期に感知し治療することが特に重要です。治療は抗生物質による原因療法と全身症状に対する輸液などの対症療法が中心となります。近年は高張食塩液による毒素の利尿排泄、副作用の少なく効果の高い消炎解熱剤や血液凝固を抑える治療、オキシトシンを使用しながらの頻回搾乳による原因菌の排除などにより、以前より治療率は上がっています。

酪農家が出来る手当て

昔ながらの「良く搾る」は原始的ですが、乳房内の細菌や毒素を排泄すると言っ意味からも、するとしないでは予後が全然違ってくる。また重い全身症状を伴うものは、すぐに往診を依頼しましょう。

予防

搾乳衛生、出来るだけ糞で汚さない、きれいな敷料を十分使う、環境を乾燥させる事、他正しい搾乳手順を心がける、フレディッピングを行う、オガクズを敷料に使用する場合は消石灰を約5%混ぜて使用する、清潔な分娩房を用意する、適正な換気を行い牛舎内の温度を下げるなどの暑熱対策を行うなどがあるでしょう。